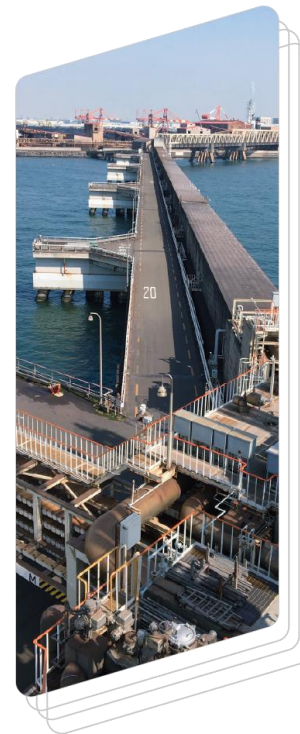
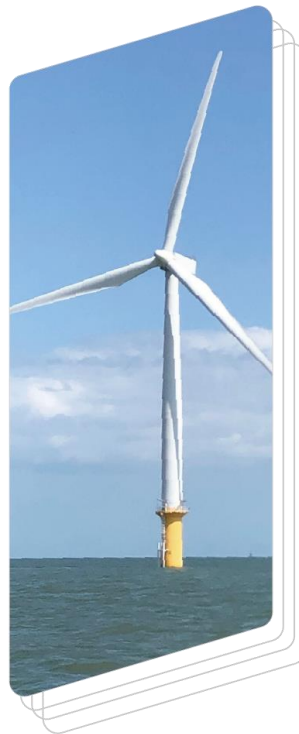


Jera

エネルギーを新しい時代へ

2025年度上期 定例会見説明資料

2025年6月27日
株式会社JERA



目次

1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

2024年5月に発表した成長戦略概要と振り返り	3
投資配分の組み換え、事業環境変化を受けてLNGを強化	4
再生可能エネルギーはStep3を達成、中長期的な飛躍を目指す	5
水素アンモニアバリューチェーン上流・下流でCapabilityを確立・強化	6
LNGの調達戦略を見直し、米国LNG最大550万トンを新規調達	7
JERAがこれからも大切にすること、kW・kWhで安定供給を高めながら競争力と柔軟性を確保	8

2. 地方創生・産業高付加価値化と一体となったGX開発の実現

脱炭素へのソリューションを共創 GX開発×地方創生・新産業構造	10
地域の再エネを活用し、地域産業の高付加価値化へ	11
クリーン燃料による新たな産業関連モデル構築を通じた高付加価値化	12
GXが根付く豊かな社会に向けて	13

1. 事業環境の変化によるLNGシフトと JERA成長戦略の遂行

Jera

Energy for a New Era

1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

2024年5月に発表した成長戦略概要と振り返り

- JERAは、「世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供する」というミッションを日々実践し、新しいビジネスモデルで挑む
- LNG、再エネ、水素アンモニアの3つを柱とし、2035年までに5兆円をこの3つの戦略的事業領域に投資し、連結当期利益3,500億円を目指す
- 投資配分は、技術進歩や事業環境の変化に応じてアジャイルに組み換える

2035年度までに目指す規模

利益

連結当期利益
3,500 億円

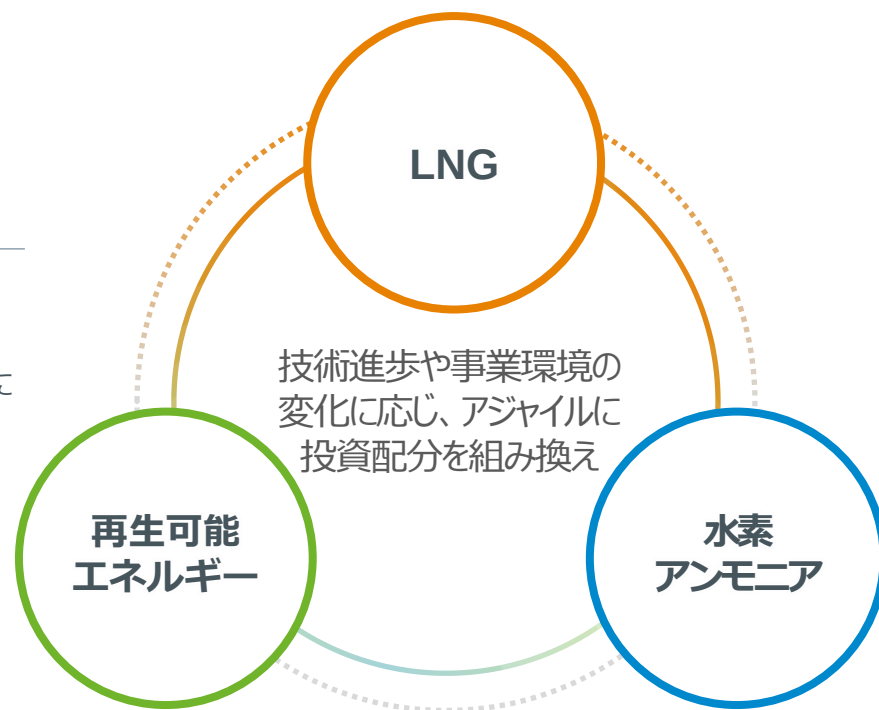
不確実な経営環境の中でも、
着実な利益成長を実現

投資額

累積投資CF
5 兆円
(2024~2035年度)

既存事業からの営業CFを原資に
3つの戦略的事業領域へ投資

戦略的事業領域



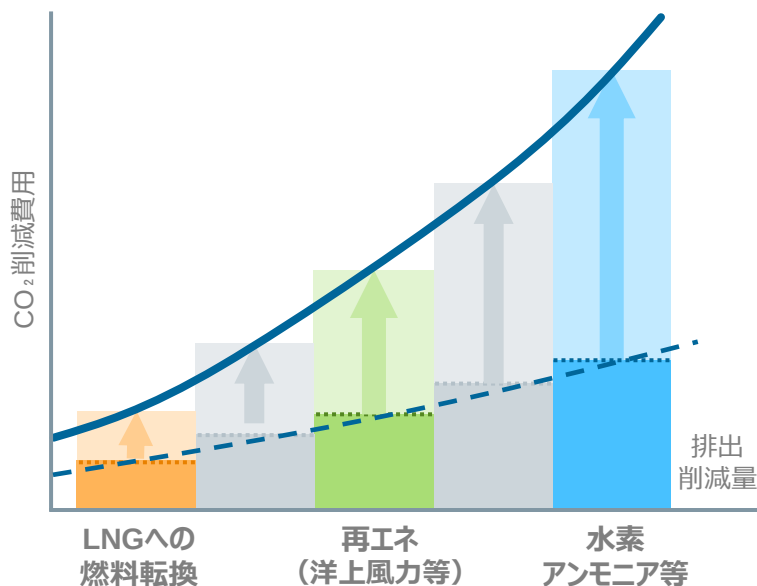
1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

投資配分の組み換え、事業環境変化を受けてLNGを強化

- 金利上昇やインフレにより、再エネおよび水素アンモニアの温室効果ガス限界削減費用は増加
- LNGと再エネおよび水素アンモニアのエネルギー供給コストギャップが拡大
- データセンター（DC）の新增設等による電力需要の伸びが一層進展。産業構造等の変化を確実に捉え、電力需要の足元からの強い追加需要への対応が求められる
- 再エネ導入が完了した市場では系統安定性確保の課題が顕在化。ガス火力が短中期の需要増に対する唯一の選択肢
- LNGへの投資配分を重点的に増加していく
- 一方で、厳しい環境の再エネ・水素アンモニアは規律ある厳選した投資や脱炭素化のCapability確立に向けた投資を継続

CO₂限界削減費用カーブが変化

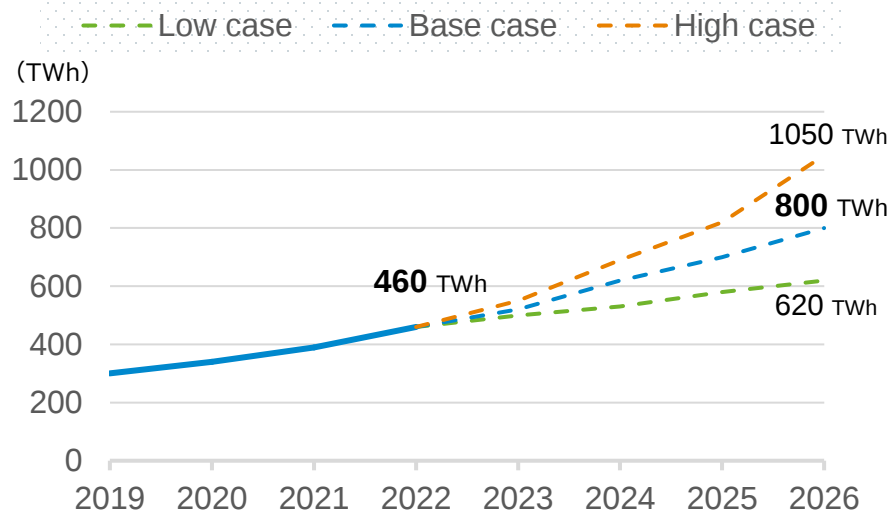
※費用カーブはあくまでイメージ



（グラフは当社試算によるイメージ）

DC電力需要の見通し

世界の電力需要（DC、AI等）



（参考）IEA“Electricity 2024”（2024年1月24日公表）

1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

再生可能エネルギーはStep3を達成、中長期的な飛躍を目指す

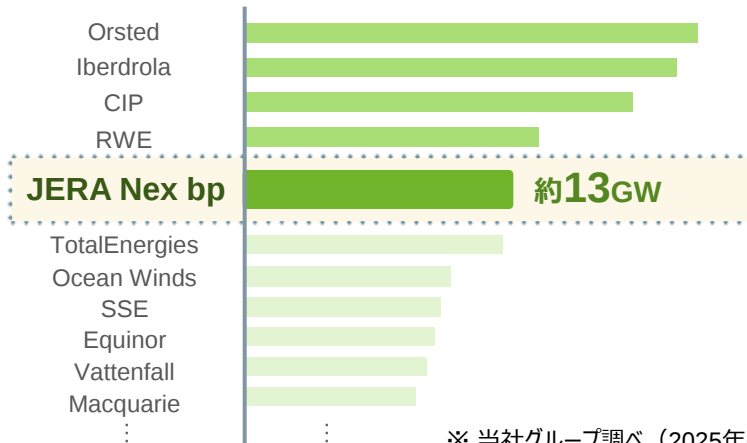
- 再エネでは、Step1としてCenter of Excellence構築、Step2としてグローバル体制構築、Step3としてグローバルプレイヤーとのコラボレーションを追求していく方針を示した
- 昨年12月にJERA Nexおよびbpの洋上風力発電事業を統合し、「JERA Nex bp」設立を発表。総持分容量13GWの規模となるグローバルな企業体が誕生
- 当社単独での投資負担は抑制しつつも、サプライチェーンでのスケールメリットを活かし、投資案件評価の規律も強化しながら同事業への投資を継続し、中長期的な飛躍を目指す

成長戦略でお示した3つのStep



グローバルでの洋上風力発電の総容量ランキング

JERA Nex bpの設立 世界第5位の規模



※ 当社グループ調べ（2025年6月時点）



1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

水素アンモニアバリューチェーン上流・下流でCapabilityを確立・強化

1

碧南火力発電所での、燃料アンモニア20%転換実証試験の成功。商用運転に向けた工事を加速

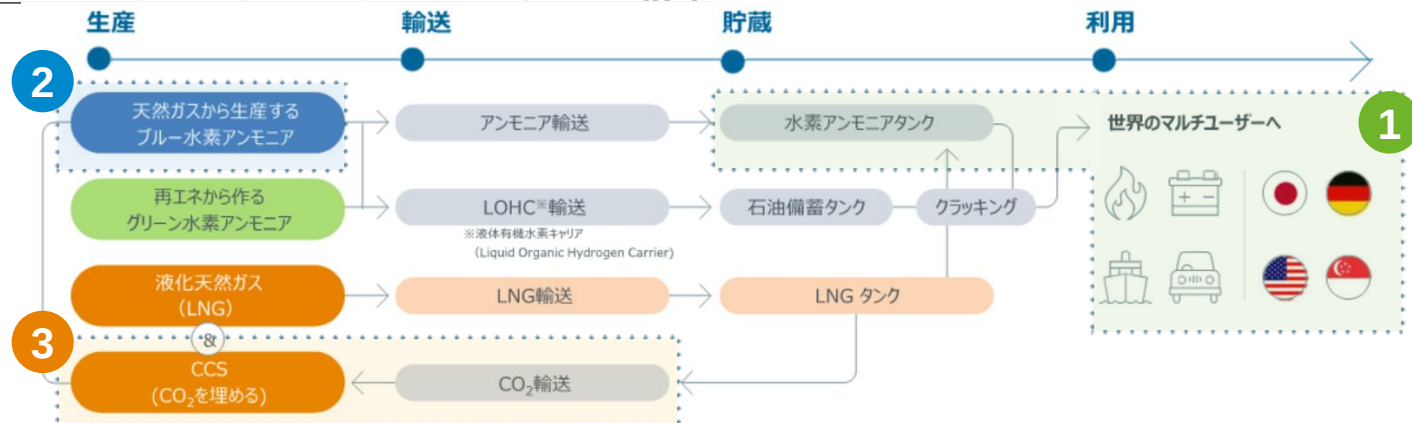
2

米国ルイジアナ州において、世界最大規模となる低炭素アンモニア製造拠点を開発するプロジェクト（Blue Pointプロジェクト）へ投資決定

3

LNGの脱炭素化まで見据え、必要なCapability確立に向けたCCS案件を厳選し、取り組みを進める

成長戦略でお示した水素アンモニア バリューチェーン構築

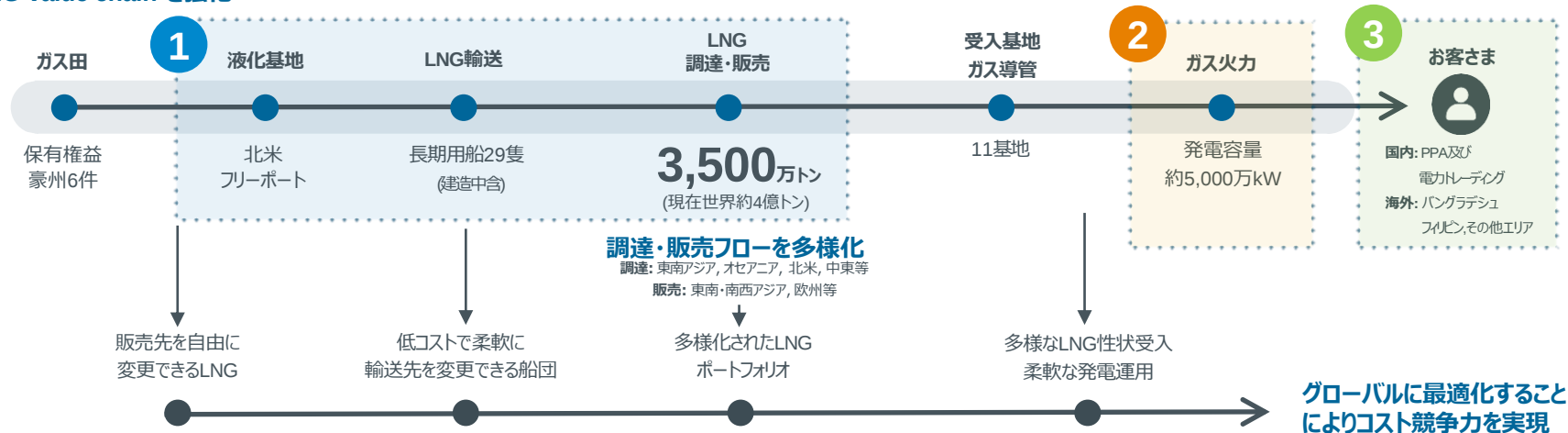


1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

LNGの調達戦略を見直し、米国LNG最大550万トンを新規調達

- ガス/LNGは、DC等による電力需要増に即応できる唯一のソリューション
- 2030年代以降、長期契約でカバーされていない需要がアジアに多く残る一方、建設コストの高騰等からコスト競争力あるLNGは減少
- 中東、アジア、米国等をバランスよく組み入れ、地域リスクを分散したポートフォリオ構築がますます重要に
- また、日本国内ではLNG需要の変動幅が拡大（次頁で詳述）。柔軟性確保が鍵
- LNG調達戦略の見直しを進めつつ、DCへの電力供給や国内電力トレーディングの強化などLNG Value Chainを着実に強化

LNG value chain を強化



1

- 米国LNG最大550万トンを新規調達
- 販売先を自由に變更できる柔軟性を確保
- LNG輸送能力は将来的に拡大して、世界でも有数の事業者
- 多様化されたLNGポートフォリオを構築し、アジアを中心とした成長市場への販売も強化

2

- さくらインターネットと電力インフラと連携したDCの新設に向けた検討に関する基本合意書を締結
- 電力と通信の連携推進を通じて、産業構造の高度化に不可欠なDC整備を加速

3

- EDF Tradingとの協業範囲をこれまでの石炭・LNGだけでなく国内パワートレーディング事業にまで拡大
- JERA GMが一体的に最適化事業を行うことで、JERA GMが構築してきた質の高いトレーディング事業基盤を、日本国内電力トレーディング事業にも活用

1. 事業環境の変化によるLNGシフトとJERA成長戦略の遂行

JERAがこれからも大切にすること、kW・kWhで安定供給を高めながら競争力と柔軟性を確保

kW

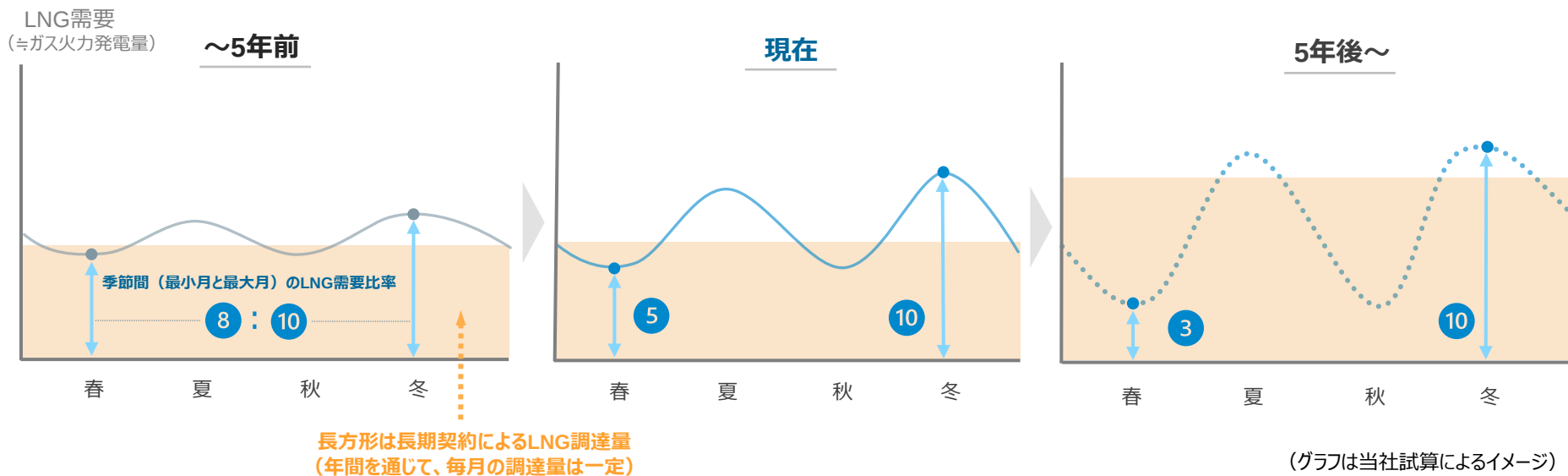
- 日本へのエネルギー安定供給は、当社にとって変わらぬ核心部
- JERA設立以降、合計約730万kWの火力発電所のリプレイス工事を完工。新規電源を確保し、kW予備率の改善に寄与

kWh

- 安定供給には、kWだけでなくkWhの確保、すなわち発電用燃料の安定確保が重要
- LNGへの重点的な投資配分シフトにより安定供給を高めつつ競争力と柔軟性を確保
- また、長期契約は、価格安定化にも寄与。国内の電気料金をエネルギー市場の変動の影響から守る上で重要な役割

- 石油火力の老朽化、再エネ導入増により、ガス火力発電需要の振れおよび季節間格差は年々拡大。これまで以上に需給変動に素早く対応できる燃料供給の柔軟性が重要に
- LNGの対応力強化に加え、石炭火力でも季節間格差に対応※

日本のLNG需要の季節間格差は拡大



2. 地方創生・産業高付加価値化と 一体となったGX開発の実現

Jera

Energy for a New Era

2. 地方創生・産業高付加価値化と一体となったGX開発の実現

脱炭素へのソリューションを共創 GX開発×地方創生・新産業構造

- 世界的なインフレや金利上昇による資機材の高騰などにより、GXサプライチェーン構築にかかるコストが増加
- GXを社会に定着させるためには、GXを産業の高付加価値化とセットで推進することが必要

- 地方においては、豊富な自然資本を活用した高付加価値な農水産物や製品・サービスを生産しているにもかかわらず、その利益が地域に還元されない構造があり、地域・産業の空洞化が進んでいる
- 「よいものを創った人にその利益が還元できるモデル」を地場産業の方々と共創することを通じて、クリーンな電気を地産地消する仕組みを構築

- 工業地域においては、水素アンモニア等の受入・供給基盤を多くの産業と共有化することを前提にした産業構造の高付加価値化を推進
- クリーン原燃料を使用した製品を産業間で受け渡ししながら、高度に差別化された最終製品を社会に提供する「クリーン産業連関」を構築

地域のみなさま

地域・産業の空洞化阻止

国際競争力を高める高付加価値化

JERA

豊富な再エネ開発適地と当社の開発体制

当社水素燃料基地周辺の産業集積

地方創生と一体となったGX開発

「地方創生」の共創

地域自然資本の
最大活用

地域に利益還元できる
産業モデルの創出

+

洋上風力の地産地消



産業の高付加価値化と一体となったGX開発

「産業高付加価値化」の共創

エネルギー源・
原料転換

プロセス転換

共同での
価値転換

+

水素アンモニア受入、供給基盤の共有



当社の販売モデル：“エネルギーを通じた価値共創企業”へと転換

2. 地方創生・産業高付加価値化と一体となったGX開発の実現

地域の再エネを活用し、地域産業の高付加価値化へ

- 地元の自然資本を活かした、付加価値の高い商品・製品を適正な価格で販売できる仕組みを共創

- さらに、カーボンフリーの電気で作られる水産物や農作物が、より高付加価値な商品として環境志向を持つ消費者などに受容される地産地消モデルを構築



STEP1

地域に利益が還元される仕組みを創る

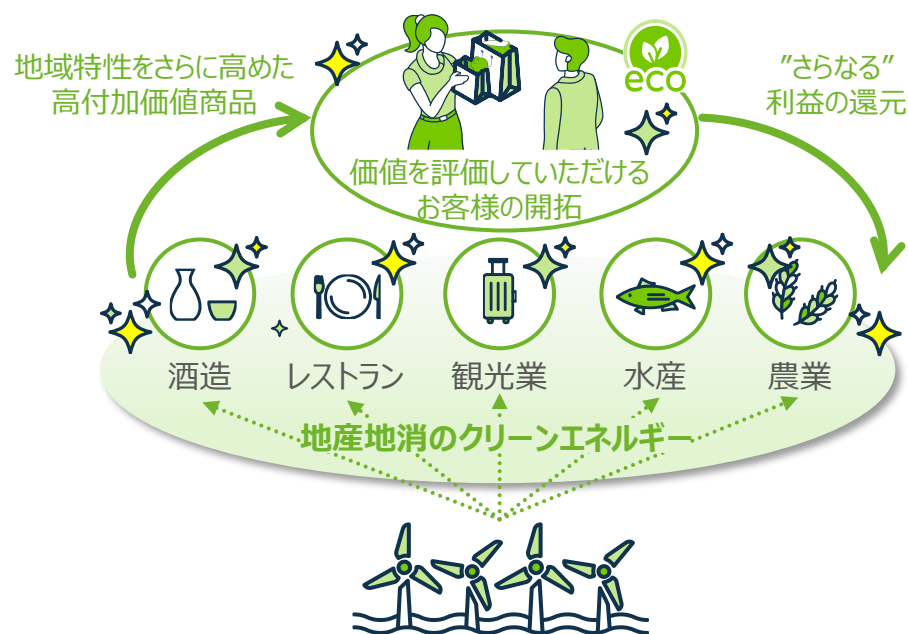


JERA : 販路開拓の支援/行政も交えた新しい流通の枠組み作り



STEP2

カーボンフリー電力によるさらなる高付加価値化

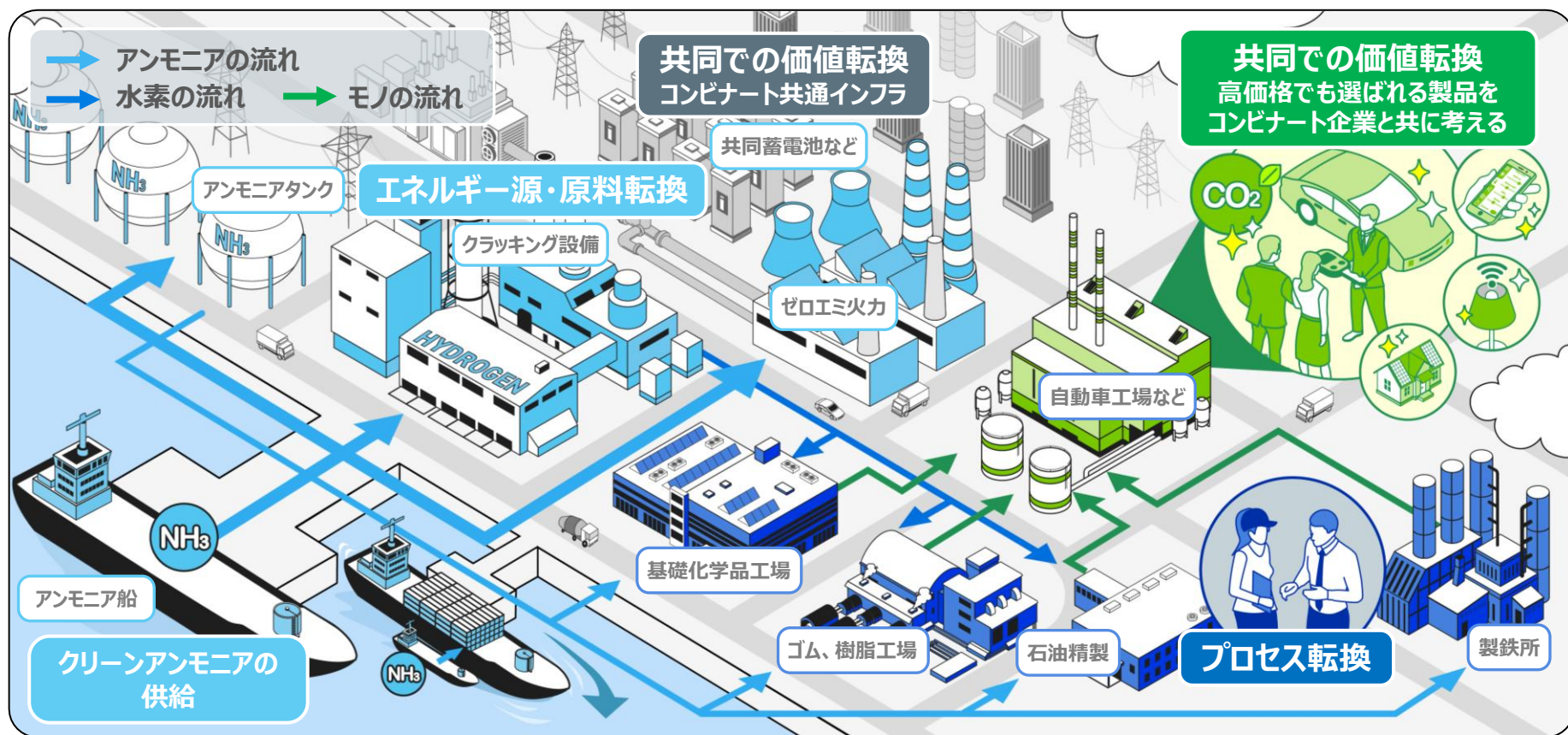


JERA : 洋上風力・エネルギーサービス

2. 地方創生・産業高付加価値化と一体となったGX開発の実現

クリーン燃料による新たな産業連関モデル構築を通じた高付加価値化

- 水素アンモニアなどカーボンフリーのエネルギーへの転換を志向するお客さま（パートナー）と共同でインフラを活用するなどして、コンビナートに集積する産業全体を高付加価値化
- JERA火力発電所のゼロエミッション化のための大規模な水素アンモニア燃料基地をコンビナートへの脱炭素熱源・材料供給基地に
- 隣接コンビナートの基礎化学品工場、ゴム・樹脂工場・石油精製製所などを転換、また、プロセス転換やDX化を支援



※クラッキング：大きな分子をより小さな分子に分解する化学反応。アンモニアを熱分解して水素と窒素に分離し、水素を取り出す技術をアンモニアクラッキングという

2. 地方創生・産業高付加価値化と一体となったGX開発の実現

GXが根付く豊かな社会にむけて

- ・ガス火力、水素アンモニア火力、再エネそれぞれの特性を生かしたエネルギーメニューを、ご提供する価値に応じた価格でご提供します
- ・これを地方創生、産業高付加価値化と一体で行い「よいものを応分の価格で創り、届けられる」構造を共創します
- ・その社会の中で、GXを価値あるものとして定着させます

JERAは、価値あるものを応分の価格で提供でき、消費できる豊かな社会を目指します

価値あるメニューを価値に応じた価格でご提供

ガス・LNG

需要増・需要変動に
即応できる低炭素エネルギー

水素アンモニア

需要変動に即応できる
炭素フリーエネルギー

再エネ

国産・炭素フリーエネルギー



よいものを応分の価格で共に創り、届ける共創

地方創生
(農林水産業等)

再エネ地産地消とDXで
地方の魅力と価値付け
➡自治体、農林水産事業者との連携

産業構造
高付加価値化
(コンビナート等)

サプライチェーン全体のGXによる
高付加価値化
➡隣接事業者とのパートナー連合組成



GXが定着する社会の実現



(参考) 火力電源のリプレースを推進、供給力を着実に積み増し

